

おります。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 時間ないんですけども、きょうみたいなすごく天気のいい日に農家としては非常に気もめる話で、豆の収穫がまだな私は自動運転に早くなっていたけるとありがたいなと思っております。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

### 鈴木 裕議員の質問

○平 進介議長 次に、順位9番、議席番号4番、鈴木 裕議員。

(4番鈴木 裕議員登壇)

○4番 鈴木 裕議員 一般質問2日目、4番目の清和長井の鈴木でございます。議員になりました3回目の質問となりますが、まだまだふなれですので、どうかよろしく願いいたします。

9月9日の台風15号は、神奈川県、千葉県に、そして10月12日の台風19号は、東日本に襲撃し、前者では房総が暴風となり、後者では関東、信州、東北地域が豪雨によりまれに見る甚大なる被害を受けました。土砂崩れによる災害、突風、暴風による建物損壊、そして洪水、冠水による被害は過去に例を見ない大規模なもので、これらの台風は多くのたつと人命を奪うとともに、住宅などの私有財産を損壊し、米や果樹などの農作物にも多大な被害を及ぼしました。

台風15号が直撃した千葉県南房総では、そのすさまじい暴風により、まちなかの電柱や看板はおろか、構造的には風速50メートルにも耐えられるという東京電力の高圧送電線の鉄塔や、また、ゴルフ練習場の支柱が倒壊し、多くの住宅が壊れたり屋根が吹き飛ばされるなどの大きな被害がありました。その影響で、停電は神奈

川県、千葉県中心に93万戸にもものぼり、南房総では2週間経過後も停電が復旧できない地域があるなど、その台風の強さと猛威に非常に驚かされたところでは。そして、停電のために断水が続き、エアコンも使えず、闇夜の生活を長期にわたり強いられた方々には、大変心が痛みます。

一方、東日本全域を襲った台風19号は、風の強さ、降雨量、規模の大きさにおいて近年においてまれに見る大型のものであり、長野県千曲川流域、福島、宮城両県の阿武隈川流域では、大規模な浸水被害が発生、堤防の決壊は7県71河川140カ所で、土砂災害も20都道府県で884カ所あったとの報道がありました。総務省消防庁によりますと、住宅被害は8万7,896棟にのぼり、報道各社による死者数は90人を超えています。

地球温暖化現象と言われ久しくなりますが、異常気象は頻繁に発生するようになってきており、天災はいつ来てもおかしくない時代ということをこの台風で改めて認識させられました。被災されました方には心よりお見舞い申し上げますとともに、不運にして亡くなられた方には、衷心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、今回の質問ですが、安心・安全なまちづくりの視点から、2項目お伺いしたいと思います。

まず、1項目めの質問ですが、このたびの台風19号の被災に対する長井市の危機管理と防災体制についてであります。

この質問について、既に質問された議員もいらっしゃいますし、私を含め8人の議員が同様な質問を予定しておりますので、重複してるところはどうかご容赦願いたいと思います。

長井市では、災害時に市民へ迅速に緊急避難情報を伝達するために、平成29年度に希望する市民に防災ラジオを配付し、おらんだラジオのFM電波を活用して災害時に避難のための緊急

情報を提供できる仕組みを整えて、毎月1回、J-ALERTを含む試験放送が実施されています。それに加えて防災ラジオは屋内にいる人しか聞けないとのことで、平成31年3月に屋外拡声装置を市内61カ所に設置し、市内全域で屋外にいる人にも緊急避難情報が聞こえるように環境を整えられました。この電波を利用して避難情報を市民に迅速に確実に提供できることになったことは、市の財政負担は大きかったものの、安心・安全なまちづくりという観点、そして人命を災害から守るという意味で、先駆的な取り組みであり、高い評価がされるべきであると私は思っています。

今回の台風19号は、このハード面での緊急避難情報システムが想定どおり機能するかどうかのまさに試金石であったと思います。当市においては、大雨警報、洪水警報が発令され、地区によっては土砂災害警戒情報に伴う避難勧告、最上川氾濫危険水位に達したための避難勧告があり、緊急避難情報を聞いて避難所への避難された数はピーク時の10月13日午前6時45分時点では469名になったと説明を受けております。

伊佐沢地区、金井神地区、森地区、東五十川地区では、12日午後8時過ぎから地区民が所定の避難所へ避難するようになり、13日午前0時30分では161名、午前1時30分には157名が真夜中にもかかわらず避難されました。そして、雨もやんで洪水の心配がなくなったと思われた13日午前5時10分に最上川の小出観測所が避難判断水位を超過したとのことから避難勧告が出され、泉地区や中央地区の多くの地区民が避難されたとのことであります。

そこで、最初の質問ですが、災害対策本部と緊急避難情報システムのソフト・ハードの運用面、情報を聞いての市民の避難対応、避難所開設と避難者への対応、土のう積みや排水作業に汗を流した消防団の活動ぶりなどを含めて、総合的にどのように感じられたのかを市長にお伺

いしたいと思います。

長井市の危機管理と防災体制について、想定どおりの満足のいくものだったのか、あるいは反省するべき点があったのか、これも市長にお伺いしたいと思います。

2つ目は、この台風での緊急放送により、初めて防災ラジオの存在を知った市民もおります。台風19号の被災以来、防災ラジオを申し込まれた世帯数とまだ未設置であると思われる世帯数はどのくらいあるか、総務課長にお伺いいたします。

普及周知については、市として十分な広報活動をなされてきたと私は思っておりますが、知らない市民に対して今後どのように周知していくべきかお尋ねいたします。

3つ目は、市の管理施設以外の避難所、例えば長井高校や長井工業高校体育館について、施設の開錠要請など緊急時にスムーズに使用できる体制が整っているのか、総務課長にお伺いします。

4つ目です。避難所への物資及び食料について、市内小中学校及び各地区のコミュニティセンター等に備蓄してあるとのことですが、物資の内容と備蓄状況はどのようになっているのか、また市の管理施設以外の避難所での物資及び食料の備蓄状況はどのようになっているのかを総務課長にお伺いしたいと思います。

5つ目は、中央地区住民から避難勧告の誘導場所が自分の居住地から見て土地が低い長井小学校や長井高校の避難所へ指定されたことに対し、疑念の声があります。ここで、「疑問」でなくあえて「疑念」という表現をさせていただきましたのは、市役所の新庁舎の移転先が長井駅前に決まった理由の一つに、土地が低いために水害のときに災害対策本部としての機能が果たせないという説明があったということを市民がしっかり覚えているからであります。この避難場所指定については、市としてのしっかりし

た考えがあつてのことかと思いますが、市民から誤解を受けないように、そのような指示を出したわけを説明しておくことが大切かと思ます。その理由について総務課長にお伺いいたします。

最後の質問です。避難勧告の放送を聞いて避難された市民の方は、ピーク時で469名と多数おりました。12日午後9時ごろから13日午前9時ごろまでいずれかの避難所で避難されていた市民がおりました。私は、緊急避難情報システムが構築されていなければ、これだけ多くの市民が避難することはなかったと思っております。実践での活用は初めてであったわけですが、避難所の指定や避難所での対応はともかく、市民に緊急避難情報を迅速に周知するという機能は発揮できたものと感じております。

しかし、避難所別の避難者数には偏りがあり、地区によっては避難された住民の数にもばらつきが見られるようです。このことは、地域によって防災意識に対する温度差があるのでないかと推察されます。市民の防災意識をもっと底上げして、防災都市長井としてさらに強化化していく必要があると思われませんが、市長は今後どのような取り組みをしていくかお伺いいたします。

これで、1項目めの質問は終わります。

次に、2項目めの質問に移ります。

夜間の市民の安心・安全のために街路灯及び防犯灯の整備を計画的に進めてきているとは思いますが、長井駅西の出入り口付近が非常に暗いと感じます。今後、新市庁舎ができ、駅舎も新しくなることを踏まえ、長井駅西の玄関にふさわしい明るい照明が必要でないかとの観点でお伺いいたします。

まず、初めの質問ですが、駅西の親水公園の遊歩道に太陽電池を電源とする照明灯が設置されていますが、非常に暗いと感じられます。上から照らす照明灯とともに、遊歩道に沿って腰

あたりの高さのポールに埋め込まれた照明器具が20メートルぐらいの間隔で設置されています。照明は全てLEDで電線は地中に埋められ、器具のデザインも近代的でおしゃれな感じがいたします。

しかしながら、夜間に実際その遊歩道を歩いてみると、安心・安全のための照明灯からはほど遠く、自分で懐中電灯を持ち合わせないと歩けないほどの薄暗さであります。照明が暗い要因は、太陽電池パネルの発電量の限界によるものと推測できます。太陽電池のため電気代がかからないメリットがあるものの、安心・安全のため路上を明るく照らすという大事な機能が抜け落ちた照明灯のような気がします。長井駅への西側の出入り口でもあり、長井工業の生徒の利用も多く、地域住民の安心・安全のためにももっと明るい照明灯の整備が必要かと思ますが、市長はどのように考えるかお伺いいたします。

2つ目の質問ですが、街路灯と防犯灯の違いは何かをお伺いいたします。長井市の場合、設置主体者と管理者の違い、設置できる道路、電気代負担などはどのような仕組みになっているのかを市民課長にお伺いいたします。

3つ目の質問は、防犯灯整備については電源立地交付金440万円を基本財源にし進めてきたとのことですが、過去数年どのような整備を実施してきたのか、また、今年度はどのような防犯灯整備に取り組まれているか、これも市民課長にお伺いいたします。

また、各地区から防犯灯の整備及び新設要望に対し、市はどのような対応をしてきたのかをあわせてお伺いいたします。

4つ目の質問であります。長井駅西側を夜間明るくする場合、既存の太陽電池照明灯の支柱に防犯灯を設置することは可能なのでしょうか。そのようにできれば新たな防犯灯の支柱を立てることも必要ないですし、かかる費用は防犯灯

の器具購入費、電気工事費のみと安価で設置できると思えるのですがいかがでしょうか。

また方策としては、さきの防犯灯を設置する方法に加え、街路灯を新設する方法、現状の照明灯器具を生かす場合は太陽電池の増設等が考えられます。この場所において、コスト、効果、明るさなどを総合的に判断したときにどのような手法が一番ベターと考えられるでしょうか。過去の補助事業による照明整備であることや設置主体者、管理主体者の違い、権利関係など複雑に絡まる事案かと思いますので、建設参事にお伺いしたいと思います。

最後の質問です。防犯灯の電気代は原則取りつけられる地区が負担すると聞いております。中道地区からは、長井駅に向かう道路や駅西周辺を明るくするため、電気代は負担してでも防犯灯を設置してほしいとの意向があります。夜間の長井駅の西側は本当に暗いのが現状です。さきにも申し上げましたとおり、2年後には線路東側に新庁舎が長井駅舎と一体となって完成します。駅の西側の玄関として長井線を利用する人の利便性を考慮し、安心して安全に歩けるよう、明るくしておく重要性を感じます。既に設置されている親水公園の街路灯と市道への防犯灯設置をうまく組み合わせて、夜間駅西から長井駅に向かう道路が明るくなるような照明灯整備ができないのか市長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木 裕議員からは、大きく2点、ご質問、ご提言をいただきました。

まず、最初のこのたびの台風19号の被災に対する本市の危機管理と防災体制についてということで、私からは2点ほどお答えをさせていただきます。

まず、最初でございますが、鈴木 裕議員からは、まず今回の台風に対する対応について、

また情報伝達手段等々の今までの整備について評価いただいたということで大変うれしくありがたく思っております。長井市は長井ダムの建設が直轄ダムとして本格的に決定したのは平成の五、六年ごろからスタートしたわけでございますが、それ以降、いわゆるハードの部分について、私が言うハードっていうのは、防災では例えば堤防、築堤、あるいは水路等々の整備のこと、また、ソフトは情報伝達手段ということで、防災FM、あるいは今回の4月から整備できました屋外の拡声装置等々はソフトだというふうに分けますと、そういった意味では、ハードについてもソフトについても大変タイミングよく恵まれていたのかなと思っております。

やはり私どもとしては、東日本大震災を一つの契機として、国も、あるいは東北を含めた我々直接の被害は少なかったんですけども、山形県もさまざまな整備を進めることができた。そのときにどういう捉え方をするのかということだと思います。私どもの場合は、東日本大震災のときに、先ほど竹田議員のほうにもお答え申し上げましたけれども、大変な市民生活に短期間ではございましたけど、影響がありました。防災FMというのを国の支援で整備することができるということで、以前からFMラジオはぜひ必要だと思っておりましたので、タイミングよくすることができましたし、あわせて実は最初、県のほうからは、同報系っていいまして、屋外のやつをぜひやってくれと随分言われたんですね。ただ、それは長井で想定される一番厳しい災害が集中豪雨だろうと。水が全部まちなかに集まってくるわけですから、そのときに屋外では聞こえないということから、ラジオが一番いいだろうという判断で、周りの町にも声かけたんですが、やはりなかなか周りの町ではそこまで考えてなかったようで、それではということで、私も単独でさせてもらったところでした。

あとは屋外拡声装置もこれは7割補助、実質的に、そういう緊急防災対策債という非常に有利な起債を使うことができたということで整備できたわけですが、あわせてその前に、学習プラザの運動公園の課題がありまして、今もいろいろな財政再建の後遺症はもちろんあるわけですけれども、あそこの活用方法について、ちょうどそのタイミングで防災機能つき都市公園というような整備ができたもんですから、長井市の場合、防災の本部は市役所ですね。

鈴木 裕議員からもありましたけれども、確かに市役所の庁舎を建てる際に、住民説明会2回したんですが、やっぱり厳しい批判ありました。何で市役所ばかりそんな安全なところに行くんだと。我々はどうでもいいのかみたいなこと言われたんですが、全くの誤解なんです。そんなことは言っていないわけで、結局、いざというときに市役所のいわゆる市民を守るための本部機能が失われてしまったら何もできなくなるんだということで、この中央地区では一番安全な駅の部分ということになってしまったんですが、一方で、防災拠点も学習プラザという考え方なんです。ですから、運動公園のところは全天候の人工芝っていうのは随分言われたんですが、人工芝ですと仮設住宅が建てられないので、人工芝だめなんです。防災のへりとかいろいろな拠点にもなるということだったんですね。

そんなことで、幸いにも進めることができたんですけども、あともう一つは、自主防災組織なんです。今でも全部の地区で自主防災組織をつくっていただいているわけではないんです。99%ぐらいで、2地区が幾らお願いしてもつくってもらえないです。これなぜか、防災なんていうのは行政が責任持ってやるものだという考え方なんです。それはそのとおりです。ただ、じゃあ、いざ自分の地域に自分の命に危険がかかってきたときに、じゃあ、行政が来るまで待ってるんですかと。そんなこと言えないです

けど、やっぱり自分たちで守んなきゃいけないでしょうって、自分も家族も地域も。だから、お願いしますっていてもまだつくってもらえない。それぐらい私ども長井は市民の皆さんが安全だっていうふうに、確かに安全かもしれませんが、やっぱり油断してるところがあるんだろうというふうに思ってます。

今回の台風19号は、去年の西日本豪雨と、あとことしはその前の千葉の台風16号ですかもありましたし、13都府県でいろんなことがあったわけですから、それだけ市民も、あつ、これは危ないんだと、どうなるかわかんないんだということで、避難された方の多くがやっぱり危ないって知ってるところに住んでいらっしゃる方なんです。ですから伊佐沢のほうであったり、金井神であったり、森、東五十川、やっぱり右岸は東側のほうは危ないと。あとは館町とか東町とか、あるいはままの上、屋城町、舟場とこういうことになるわけですね。ただ、それ以外のところは雨が市内降らなかったもんで、やっぱり危機感を持ってなかった方も多かったんじゃないかなと、そのように総括しております。

一方で、消防団のほうは、私も昔のことは消防団員経験したことないんでわからないんですが、自分の感覚では、やっぱり東日本大震災以降の消防団、少し変わったのかなっていう感じは持ってます。もともと消防団の皆さんは、自分の家族を含めた市民の命を守る、あと財産を守るということで、主に火災に対して非常に何ていうんでしょうかね、自分が守んなきゃいけないっていう使命感持っておられたんですが、それが平成25年も26年も集中豪雨で防災のほうでかなりご苦労されましたし、あと東日本大震災での状況などを見ますので、近年非常に士気が高くて、本当に水害のときも徹夜で、皆さん仕事持っておられながら頑張っていたいたと。そして、それをやっぱり市民の皆さんも非

常に評価してるっていうか、頼もしく思っ  
てもらっていると、そういったところの消防団の  
士気もかかわっているんだろなというふうに思  
っているところでございますが、ソフトについ  
てはこれからもっともっと、やっぱり時間もど  
うしてもかかるので、あとは金曜日もあときよ  
うの午前中も質問にお答えいたしましたけども、  
何しろ長井は安全だっていう市役所自身も思っ  
てたので、避難所はあと指定しようがないんで  
すね。長井の中央地区は本当に堤防が決壊した  
ら水浸しになるのが多分もう7割、8割になる  
んじゃないかと思えますんで、そういった意味  
で、それらをどういうふうにして、まずは命を  
守って、その後、財産をどう守るかというところ  
を少しずつやっぱり時間をかけてやっていく  
しかないのかなというふうに思っています。

これが1点目で、2点目のところでございま  
すが、避難者数は地域によって隔たりがあると  
聞いていると。市民の防災意識を底上げしてい  
く必要があると思われるが、今後どのような取  
り組みが必要と考えてるかということございま  
すが、隔たりというか、地域によって格差が  
あるのは、やはり例えば西側の上流部の人たち  
は、じゃあ、安心してらかって、決してそうじ  
ゃないんですね。特に山が荒れてますので、県  
管理の河川が結構いろいろ農地とか、場合によ  
っては集落にも影響あるということなんですけ  
ども、一番はこれからは自主防災組織とあわせ  
てもう一度災害のときは本当に自分で自分たち  
の命を守る、あるいは支え合って助け合ってや  
っぱりしっかりと地域を守って、命を守るん  
だっていう意識を持ってもらおうと同時に、私ど  
も一緒になって、あるいは消防団とか消防署と  
か警察とか一体となってさまざまな計画をつく  
り、実際の訓練も行い、いざというときに備え  
るということが必要だと思います。

なお、私どもの連携協定、災害の連携協定を  
結ばせてもらってる静岡県の掛川市、あと東京

大田区のほうに担当職員をここ二、三年派遣し  
て、一緒に訓練参加してますが、やっぱり特に  
静岡は全く違うと。それだけ昔から東南海の地  
震を想定した訓練が行われてるんで、もう全く  
違うとびっくりしたというふうな感想なども聞  
いておりますが、やっぱり私ども市民、いつ来  
るかわかんないですよ、本当に1,000年に1  
回かもしれませんけれども、それがあしたなの  
か100年後なのかかわかんないわけですから、そ  
この何ていうんでしょうかね、啓蒙を含めて、  
そういったことも大切だと思っております。

次に、2点目の長井駅西側出入り口の照明灯  
の整備についてということで、2つこちらもご  
提言いただきました。

まず、最初に、駅西の親水公園の遊歩道に太  
陽電池を電源とする照明灯設置されてるけど非  
常に暗いと。これは駅の出入り口であり、さま  
ざまな生徒やら工業校の生徒や地域住民の安  
全・安心のためにも明るくすべきだというよう  
なご提言でございます。

こちら経過はご存じだと思うんですが、実は  
かなり私もおしかりを受けたんですが、あそこ  
防風林があったんですね、防雪林といいますか。  
まず、中道のあの周辺の方々からは、朝も一日  
中電気つけないと生活できないと、新聞読めな  
いんだって言われたんです、暗くて。あと水路  
が今もちょっと設計ミスだったのかよくわかん  
ないんですけども、余り流れなくて非常に不衛  
生で何とかしてほしいということがありまして、  
今から10年ぐらい前ですかね、整備したわけ  
ですが、木を切ったんです。非常に明るくなっ  
て喜ばれたんですが、一方で、風が強くなった  
って本町とか栄町の人には面と向かって何回も言  
われました。おまえのせいだって。困ったと何か  
言われたんですが、それは何とかご理解いただ  
いたんですけども、そこで、やっぱりすぐそば  
に線路のそばに生活されてるんで、鉄道が走っ  
てるうちは、これはご本人たちもある程度うる

さい、人が通るっていうのは当たり前だと。ただ、夜中に、あそこ公園みたいにしたもんですから、いろんな人が明るくて騒いだりすると非常に迷惑だということもあって、少し照明を落とした太陽光の防犯灯っていうか街灯にしたっていう経緯があるんですね。

今後ですけども、これは最後のご提言にもなるんですが、市庁舎を建てたときに、いろんなところで最終的にどれぐらいの明るさ確保できるかはちょっと公共施設整備課と私も確認してないんでよくわかんないんですが、議会棟のほうは駅と議会棟一体なわけですね。朝は5時半ぐらいから夜は10時ぐらいまで鉄道に合わせてあけておりますので、しかも市民協働ルームとか、あとは議会のほうも議場を使わないときは開放していいというような議会からお許しをいただいて、そういう考え方で今後どういう運営するかですが、当然明るく、そして長井駅前通りのちょうど真ん中にあるわけですから、ある程度ライトアップしたいと、そんなにお金をかけてライトアップはできないですけども、結構明るっていうふうには思ってるんですね。

それと、山形鉄道のほうにお願いしてるんですが、これはぜひ国の補助事業を使ってホームを直してもらえないかと。それで、ホームでおりに雨にぬれないでちゃんと駅まで、市庁舎まで行けるような、そういうふうにしてもらいたいと。あわせて雑草がいっぱい線路のところ生えてるんですけども、ああいったところも変えていこうよと。

そこにあわせて以前から提案、議会からも提案あったんですが、べに花って前ありましたですね、あそこの南側のほうに工務部っていうのあって、そこが全部一体化するんで、あそこは更地にして、できれば駐車場にしたいと。本来であれば百間道路から駅の西に当たる西口みたいなところを本来であればつくりたいんですが、恐らく20億円、30億円かかるだろうと。それは

到底今の長井市ではないので、まずはあそこ駐車場にしよう。それにあわせて駅西の人たちもそこに車を置いて、フラワー長井線で旅行行ったり、汽車に乗っているいろんな用を足してもらおうと。あとは今、向こう側からも自転車と歩いては来れるようにしてますんで、その辺のところを山形鉄道のホームの整備のあたりについていっても来年度あたりにはしなきゃいけないんですけども、そのときにあわせて検討すべきなのかなというふうに思ってるところでございます。

なお、後ほど市民課長からあると思うんですが、電源立地の使い方については、これに使わなきゃいけないっていう基準はあるんですが、一般財源っていう形なもんですから、例えば防犯灯なんかは現金でやんなきゃいけないですよ。例えば1,000万円、2,000万円のいろんな事業、ハード事業でしたら、物によってはやっぱり長く使うんで、10年の借入れを起こしてやってくと。そうすると何カ所もできますんでね。でも、あれ全部現金でやってるんで、なかなか限られた財源でしかできないと。

ただ、来年は、この市役所の前の通り、非常に暗くて、長井小学校の旧第一校舎にも、あと中学生、小学生、高校生の人たちがちょっと危ないんじゃないかということとか、あとは中道の百間道路のところ去年死亡事故が相次いでありましたので、あそこに防犯灯を20基ぐらいふやして明るくしようとか、そういうことで考えておりまして、駅のほうはその後の整備になるかもしれませんが、あわせて検討してまいりたいと思いますんでよろしく願いいたします。

○平 進介議長 渋谷和志危機管理主幹。

○渋谷和志危機管理主幹 鈴木 裕議員のご質問に4点ほどお答えしたいと思います。

まず、1点目の防災ラジオの申し込み、台風以降の申込数、未設置の世帯数ということでございますが、台風15号以降に貸し出された世帯

数は65で、現在も1人、2人とりに来られております。まだ貸し出しされてない世帯は、おおよそでございますが、長井市の9,900世帯のうち4,100世帯余りまだ残っております。この状況を考えまして、再度、市報等のほうで周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

続きまして、市の施設以外の避難所について、施設の開錠などスムーズに使用できる体制にあるのかと、連携はとれてるのかというご質問でございます。

開錠の体制については、事前に取り決めをしております。ただ、高校の事務の先生については、遠方にお住まいになってる方とかもいらっちゃって、開錠まで時間を要したというところがございます。その後に各施設に台風の後にお伺いさせていただいて、お話を聞いたところ、議員のご指摘の高校含めまして、合い鍵を市のほうで持っていたいただければ早い避難所の開設ができるのではないかなというふうなこともございました。今後は合い鍵の対応だけでなく、各担当職員が施設の状況を事前に把握しておくために、各施設の担当者の方々ですとか地域の自主防災会の皆様と意見交換のほうからまず始めていって、適切な対応に結びつくのではないかと考えております。

続きまして、市内小中学校及び各地区コミュニティセンターに備蓄してあることだが、物資の備蓄状況はどうか。市の施設以外の避難所の物資及び食料の備蓄ということでございますが、市の施設での食料を除く物資の備蓄状況でございますが、毛布は2,788枚、簡易トイレは60セット、1セットは100回分になります。あとは圧縮タオル2,995枚、あと8ミリ厚の断熱性、あと緩衝性の性能を持っているロールマット115本でございます。備蓄場所につきましては、市の拠点となる地区の拠点となる施設に配置しております。避難所を開設したところに最寄

りの避難所のほうにそこから搬入するようにしております。

続きまして、緊急避難の誘導場所が居住地より土地が低い長井小学校や長井高校になっていることに対し、市民から疑念の声というふうなお話ございました。

低いっていうことは、高いほうから見れば低いということになりますけども、堤防側からすれば高いほうにあるわけでございます。あと避難勧告は各地区ごとに避難勧告するので、地区の半分は低いから逃げてくださいとか、高いから逃げなくていいですというようなものでは避難勧告は出せないということをご理解いただきたいと思っております。

なぜそちらの避難所のほうに誘導したかというところは、まずもって金曜日にもご説明申し上げましたが、最上川の小出観測所の水位が急上昇したこと、未明の避難勧告であったこと、あと避難される方の移動距離、あと避難勧告している地区が避難者数が大多数になること、そういったことを総合的に勘案いたしまして、長井小学校と長井高校を避難所として指定している地区の方々に対しまして、当該施設に避難するように勧告したところでございます。

なお、指定緊急避難場所の指定基準、国から示されてる基準がございまして、地震以外の基準は3つございます。1つは管理条件、もう一つが立地条件、あとは構造条件、この3つとなっております。立地条件につきましては、水防法の浸水想定区域内は安全区域内という条件を満たさないということでございますが、かわりに構造条件、想定水位以上の高さに居住等の受け入れ用の部分があること、かつ有効な経路があることというような条件を満たせば避難所としては可能だということでございまして、今回、長井小学校、長井高校につきましては、居住用の部分が体育館2階の部分にあるということで判断してそちらのほうに避難勧告をかけたところ



ろでございます。

○平 進介議長 青木邦博建設参事。

○青木邦博建設参事 お答えいたします。

初めに、ソーラー照明灯への防犯灯の添架につきましてであります。現在、主に電力柱をバンドで巻く設置方法となっておりますので、電柱より細い支柱であっても接続は可能でございます。また、照明設置におけるスピードや簡易さ、そしてコストや適度な明るさを考慮することは、もちろん大切なことではありますけれども、先ほど市長答弁にもありましたように、新庁舎、新駅舎整備、そして駅西整備と一体的、総合的に考える必要があり、照明器具の種別、所管につきましても、あわせて検討していきたいというふうに考えております。

○平 進介議長 金子 剛市民課長。

○金子 剛市民課長 街路灯と防犯灯の違い、設置主体者、管理者の違い、設置できる道路、電気代負担などについてお答えします。

一般的に街路灯は主に車道を照らし、車両の安全通行を目的に設置したものをいい、防犯灯は夜間時に不特定多数の人が通行する生活道路において、暗くて通行に支障がある場所や防犯上不安のある場所に設置したものをいいます。街路灯の設置主体者はそれぞれの道路管理者となりますので、市道であれば市長が設置主体者及び管理者になり、県道、国道についてはそれぞれの道路管理者となります。また、街路灯の電気代も道路管理者の負担となります。長井市における防犯灯設置の主体者及び管理者は市長であり、担当は市民課、生活環境係となっております。

防犯灯設置できる道路は、いずれの道路であっても東北電力の電柱、あるいはN T T東日本の電話柱があれば設置は可能ですが、新たに設置柱や電線の引き込み柱を建てる場合、県道管理者、市道管理者等から設置の許可が必要となります。電気代はおおむね地区の負担となって

おりまして、照明器具などの維持管理費については市で負担することとしております。

次に、防犯灯整備、電源立地交付金を財源に進めたこと、過去数年間どのように実施してきたのか、新たな新設要望に対してどのような対応をしてきたのかについてお答えします。

平成25年度から平成29年の5年間は、電源立地交付金を財源として市内に設置してある約3,000基の防犯灯について、蛍光灯及び水銀灯からLED防犯灯への変更を実施いたしました。平成30年度の電源立地交付金は消防用ポンプ積載用の軽ワゴン2台を購入したとのこと。今年度につきましては、電源立地交付金を財源として新たに地区要望に応えるべく、通学路を優先に歩行者や自転車通行の多い市内の主要幹線道路沿いに防犯灯の新設工事を実施しております。電気料金負担につきましては、地区負担、維持管理については市で行っております。

○平 進介議長 4番、鈴木 裕議員。

○4番 鈴木 裕議員 市長を初め、担当参事、課長、主幹の皆さんから大変明確なご答弁いただきました。ありがとうございます。

まず、台風関連の危機管理と防災のところで再質問をさせていただきたいと思いますが、まず、大きな1番の4番目の質問事項についてですが、先ほどの話ですと、例えば長井市の施設以外の管理施設には食料も物資も保管されてないというお話でありましたけれども、このたびの避難所において、長井高校避難所、私も現場確認にまいりましたけれども、時節柄10月だったわけで、そう暑くもない寒くもないということなんです。何せ台風の時期だったものですから、少し体育館内は冷ややかという状態だったと思います。それで、やはり寒いということで、毛布を希望する避難者が多数いらっしゃったんですが、私、聞いた話によりますと、市のほうで準備されたのが毛布20枚、そして館町南の備蓄の分、毛布20枚ありましたので、地区から地

区の防災用品からお貸しをしたというお話を伺っております。

それで、貸し出しの方法なんですが、避難所の運営面になるんですけども、毛布を簡単にいうと避難者に対して毛布要る人という呼びかけをされたということで、できれば体の不自由な人とかお年寄りの方に優先的に貸し出す方法がいいのではないかというような住民のご意見もございましたので、それを付しておきたいと思えます。

また、あとそういった意味で、もう少し物資の備蓄も必要だと思うんですが、例えばですけども、館町南に防災倉庫というものがありまして、いろんな防災グッズが入っております。ですから、長井高校の避難所に何も資材を準備されてないとしたら、例えば館町南地区と協定なりを結んで、その防災倉庫の脇にでも置かせていただくというふうな取り組みも可能ではないかなというふうに思ったところであります。

あともう一つ、避難場所の件で、非常に体育館の床、冷たいということがあります。それはロールマットでカバーできるかなというふうには思うんですが、体の不自由な方とか、あるいは足腰の弱い方、そうした方が結構長い時間避難されるといった場合に、やはりベッド的なものが要るかと思うんですね。

そのベッドなんですが、段ボールの組み立て式の簡易ベッドなどを準備しておいて、それを倉庫に保管しておく方法などが考えられるのではないかなというふうなことをひとつ提案させていただきたいと思えます。

市販でもあるような話をお伺いしますけれども、市内に段ボールのメーカーがあるわけですし、常には、段ボール板ですので保管もしやすいですし、いざとなれば、軽いもので、組み立てもしやすいというふうに思いますので、その辺についてはぜひご検討いただければというふうに思います。

余り時間もないので、本当は10分ぐらい前にやめたかったんですが、時間もないので、大きな2項目めについて感想を述べさせていただきますが、これも的確に市当局の皆様にご説明いただいて、大変勉強になったところであります。

私の言わんとするところは、方法とか器具はどうあれ、早く長井駅の西側が日の目が当たるようにきちんと、裏口でなく、長井駅の西口として存在できるように明るくしていただきたいと、こういう思いで照明が暗いという話をさせていただきました。

市長並びに建設参事からは、西側一帯を駐車場などの整備をしながら、市庁舎の建設にあわせて進めていくということですので、大変ありがたいと思っております。

市庁舎の完成とともに、駅西が明るくなることを期待しまして、私からの質問、閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は午後3時20分といたします。

午後 2時57分 休憩

午後 3時20分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 渡部秀樹議員の質問

○平 進介議長 次に、順位10番、議席番号9番、渡部秀樹議員。

(9番渡部秀樹議員登壇)

○9番 渡部秀樹議員 お疲れさまでございます。